

名 称	第 23 回環境・都市計画講習会『コロナ禍を契機とした新たな合意形成』 ～デジタルツール等を活用したコミュニケーションの工夫と実践～		
実 施 日	令和 4 年 11 月 24 日 (木)	実施場所	建設コンサルタンツ協会関東支部 会議室
参加者数	43 名 (会員 41 名、非会員 2 名 (行政 1 人、学生 0 人、その他企業 1 人))		

実施目的

環境専門委員会、都市計画専門委員会では、平成 11 年度より、建設コンサルタンツ協会関東支部に所属する技術者を対象に、環境分野と技術・話題の親和性が高いまちづくりの視点から様々なテーマでその時々話題をテーマとした講習会を開催している。

本年度の講習会のテーマは、昨今の社会情勢や業務推進方法の変遷を踏まえ、デジタルツール等を活用したコミュニケーションの工夫と実践というテーマでの講習会とした。具体的には、『コロナ禍を契機とした新たな合意形成』として、ZOOM や Teams といった Web 会議ツールを、意見交換・合意形成の場で活用するためには、どのように工夫、実践していけばよいかを事例等を交えながら紹介。技術者としての知識・技術力の向上、最新情報の共有のほか、日頃の業務への活用、応用を狙った。

なお、コロナ禍での講習会開催となったため、開催は関東支部会議室からのライブ配信とした。

実施概要

1. 開催概要

本講習会は令和 4 年 11 月 24 日 (木) 13 時半～17 時に以下のプログラムに従い、関東支部所有の ZOOM ミーティングを活用したオンラインにて開催 (受講料：会員 1,000 円、非会員 5,000 円 (振込手数料別)、自治体・学生無料) した。

講師は企業から招き、合意形成を図るうえでのデジタルツールの活用例の紹介、web 会議ツールを用いた望ましいファシリテーション、ファシリテーターとしての実践などについて講義いただいた。また、講演後には、聴講者から ZOOM チャット機能を利用した質問事項を踏まえ、講演者を中心に意見交換を行った。

13:00～	受 付 (ZOOM 会議室ログイン)
13:30	開会挨拶・趣旨説明：
～13:40	三木 優治氏 (建設コンサルタンツ協会 関東支部 環境専門委員会 委員長)
13:40	講演 I : 「コロナ禍となって変化した説明会等の開催事例と課題」
～14:10	石黒 賢一氏 (建設コンサルタンツ協会 関東支部 環境専門委員会 委員) 035
14:10	講演 II 「市民合意形成におけるデジタルツール利用の留意点」
～15:10	矢嶋 宏光氏 (株式会社 三菱総合研究所)
休憩 5 分 (15:10～15:15)	
15:15	講演 III 「With コロナ時代の参加の場のデザインやファシリテーションの工夫」
～16:15	千葉 晋也氏 (株式会社 石塚計画デザイン事務所 代表取締役)
休憩 5 分 (16:15～16:20)	
16:20	質疑応答・意見交換
～16:50	
16:50	総括・閉会挨拶：講習会実行委員長
～17:00	佐藤 裕治 建設コンサルタンツ協会 関東支部 都市計画専門委員会 委員

2. 当日の運営

本講習会は、これまでライブ配信してきた環境・都市計画講習会の反省点を踏まえながら、支部事務局と事前に打合せやリハーサルを経て当日に臨んだ。その一環で、最後の「質疑応答・意見交換」では、音質の向上と複数の登壇者がいても発言者が特定できる 360 度カメラ (所属委員会社より借用) を導入した。

さらに、今回は、ZOOM 機能の「ブレイクアウトルーム」を聴講者に利用してもらい、その機能の業務上での利用価値・可能性を体験してもらった。

3. 講習会

①講演Ⅰ「コロナ禍となって変化した説明会等の開催事例と課題」

【講師】石黒 賢一氏（建設コンサルタンツ協会関東支部 環境専門委員会委員）

コロナ禍におけるweb会議の実施の仕方、工夫、課題等について、建設コンサルタンツ協会関東支部会員会社への事前アンケート結果の紹介を行った。ZOOM、Teamsを使用するケースが大多数であることが分かった。また、こういうツールがあればいいなという点では、「感度の向上」「発言者の声が周囲に漏れない」「周囲の雑音が入らない」など、音声機能の充実を求める意見、「参加者の表情や反応」を求める意見、「発言が重なっても聞き取れる、声が途切れない」などの技術要望に関する意見、発言者の声を文字おこしてくれる等、発言内容の可視化に関する意見等が挙げられた。

②講演Ⅱ「市民合意形成におけるデジタルツール利用の留意点」

【講師】矢嶋 宏光氏（株式会社三菱総合研究所）

従来行われてきた「丁寧な説明」、「アンケート等の意向調査」、「ワークショップ」、「協議会」等だけで合意形成ができるか。米国では70～80年代に事業が進まなかった時代があり、日本でも何が最も良いのかを考えながらコンサルタントをしていくと良い。合意形成を行うには、ステークホルダーの存在を的確に把握するのみならず、各ステークホルダーが有する利害とそれに向き合う姿勢を認識する必要があるとされた。ステークホルダーがどのような考えや意見を、いかなる背景で抱いているのか、意見の背後にある理由たるインタレスト（利害関心）を探るコミュニケーションが必要と説かれた。

③講演Ⅲ「With コロナ時代の参加の場のデザインやファシリテーションの工夫」

【講師】千葉 晋也氏（株式会社石塚計画デザイン事務所 代表取締役）

コロナ禍における対面形式、オンライン形式でのワークショップ開催時にどのような工夫が求められるのか、また、意見交換や合意形成のために活用できるデジタルツールの紹介がなされた。デジタルツールは日進月歩、活用しやすいツールを見つけ出し、うまく機能させることで充実した会議が開催できることが実践（ブレイクアウトルーム）を通じて理解することができた。一方で、オンラインで参加できない人への配慮としての対応や別の手法の検討が必要であるとの課題も示された。

④意見交換セッション

【登壇】講師：矢嶋宏光氏、千葉晋也氏

事務局：石黒賢一氏（環境専門委員）、佐藤裕治（都市計画専門委員：講習会実行委員長）、
山川仙和（都市計画専門委員長）、三木優治（環境専門委員長）

講習内容を踏まえ、今後、コンサルタントに求められる役割となるメディエーターやファシリテーター※として必要なスキル、合意形成に至るには関係者それぞれが考えることを深堀していくことが重要であるということなどについて意見交換が行われた。合意形成とは、説明者の実施したい事案の合意を取り付けることではなく、関係者のニーズを引き出し、その根底にあることを解決すれば本当の合意形成となる。互恵的なマインドを持って業務推進していくことの重要性が示された。

※：メディエーターやファシリテーター：

対話を促進するという限定的な機能を与えられた調整役がファシリテーター、合意素案の作成や話し合いの場での合意形成をプロデュースする役割がメディエーターと言われる。メディエーターの役割にはファシリテーターの役割が包括的に含まれる。



講習時の雰囲気：矢嶋氏（左上）、千葉氏（右上）



講習時の雰囲気：意見交換セッションの風景（左）



360度カメラによって聴講者が見ていたパソコン上の画面状況（右）

4. アンケート結果

セッティングから講習会終了まで、大きなトラブルもなく無事終了した。全体を通しては「成功」と捉えている。また、非会員（民間企業）にも聴講いただき、テーマとしてもタイムリーな内容であったのであろうと捉えている。

聴講者は30、60歳代が少ないものの、20～60歳代までの幅広い年齢層の参加があった。講習会の参加にあたっては「テーマに興味があったから」（85%）「仕事・研究に役立つと思ったから」（56%）という意見があったこと、内容については全体を通して「大変有意義であった」、「ある程度有意義であった」との回答が94.1%であったこと、3つの講義の難度についても概ね90%以上が「適切」との回答を得たことから、本講習会の内容は会員サービスとして十分に役立つものであったと評価している。

また、web形式の開催については、例年通り、推奨する意見が多かったが、講師と対話（意見交換）しやすい形式での講習も実施してもらいたいという声も出てきた（今回の講習テーマが要因かもしれない。）。

なお、360度カメラの導入により、発言者の顔が画面表示されたことにより、討論の内容がわかりやすかったとの意見もいただいた。今回は借用での対応であったため、今後、支部で機材を導入していくことで同様の講習時での聴講者サービスの向上につながるものと考えられる。

以上